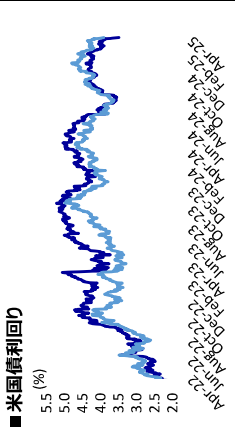
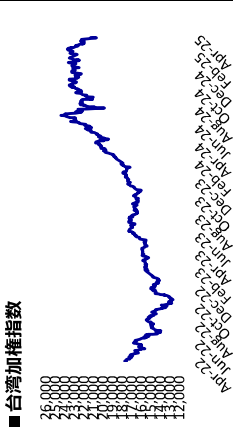
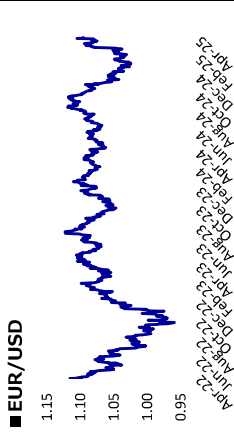
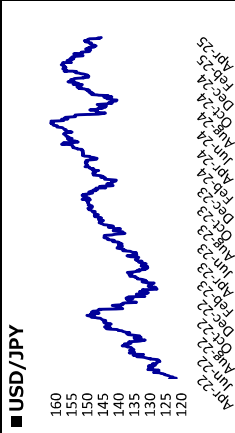
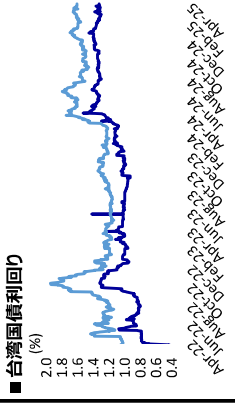
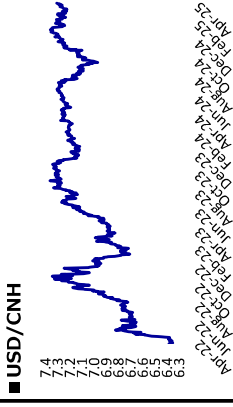
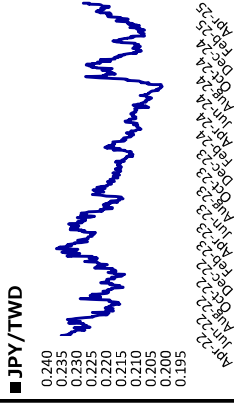
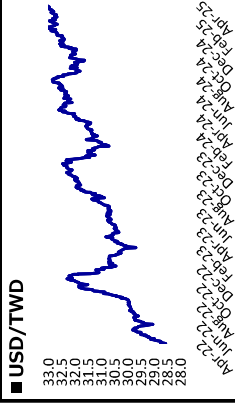


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは上昇。週初3/31は33.130でオープン後、外資による台湾株売りが止まらず、リスクオフのドル買いが優勢となり、一時約9年ぶりの高値を更新。その後は台湾当局の調整売りが見られ、ドルの上げ幅はやや縮小。4/1は、外資による台湾株売りはやや落ち着いたものの、海外への送金が続いている中、ドルは一時33.274まで上昇。4/2、外資によるドル送金が止まらず、ドルは一時33.250まで上昇。午後は台湾当局のドル売りに抑えられ、最終的には前週比0.03%ドル高台湾ドル安の33.088で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は432.9億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は下落。週初3/31は149.70でオープン後、米トランプ政権による関税懸念を受け、リスクオフで円台後半から一時148円台後半に低下したものの、欧米時間に入り、米株の反発とともにドル買いで150円前後まで買い戻された。4/1は、米経済指標は3月ISM製造業、2月求人件数ともに弱く、米景気減速懸念が強まり、金利の低下に伴い、円も一時149円割れまで上昇。4/2は、発表された米3月ADP雇用統計は予想を上回るも、米政権による相互関税の詳細発表を午後控える中、リスクオフモードが優勢となり、149.10まで下落。4/3は、前日に発表された米政権による相互関税が世界経済を減速させるとの思惑は依然根強い事や、米3月ISM非製造業景況指数が予想より悪化した事は一段の重しとなり、145.19まで大幅下落する。4/4は、発表された雇用統計のヘッドラインは予想より強かったが、過去のデータが下方修正されたことで為替市場の反応は大きくはなかった。その後パウエル議長が関税の影響がある程度認めつつも、拙速な利下げを否定したこととドル買いを誘発。最終的には前週比1.97%ドル安円高の146.88で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD
予想レンジ：33.150-33.500
今週のドル/台湾ドルは底値の堅い推移を見込む。トランプ氏が打ち出した新たな関税政策は、市場参加者の想定以上に強硬なもので、リスクオフのドル買いが強まりやすいだろう。

■ USD/JPY
予想レンジ：140.50-149.50
今週のドル/円は下値を探る展開を想定。貿易戦争リスクに世界的に株価が下落する中、短期目線ではリスクオフトレンドが継続、ドル/円も下値を探る展開となるだろう。

今週の予定

4/7 (MON)	日銀支店長会議、地域経済報告
4/8 (TUE)	デリー・サンフランシスコ連銀総裁 講演
4/9 (WED)	FOMC議事録、相互関税各国上乗せ分開始予定日
4/10 (THU)	米3月消費者物価指数、3月中国消費者物価指数
4/11 (FRI)	米4月ミシガン大学消費者指数、ラガルド・ECB総裁記者会見

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更される場合があります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなされるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。